

BOOK CLUB

2026.8.5 Vol.63 南田中図書館

夏休みこそ図書館へ!!

中高生のみなさんこんにちは！
毎日暑い日々が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか？
台風やゲリラ豪雨に熱中症、命を守るための行動を心がけるシーンが多くなる季節ですね。知識があれば対策もできます。更に、情報を収集すれば予防もできます。ぜひ習慣づけて暑い夏を乗り越えましょう！

さて、そんな暑い時こそ図書館に足を運んでみませんか？
練馬区の図書館はクーリングスポットに指定されています。マイボトルに水を補充できる給水スタンドもあるので快適に過ごせますよ♪

南田中図書館では夏休み期間中、2階会議室を閲覧席として毎日開放しています。(イベントや団体活動で利用する日時を除く。詳細は南田中図書館内に掲示している「会議室の開放予定」で確認するか、電話でお問合せください。)
夏休みの課題に取り組んだり、友だちと一緒に勉強する場としてぜひ活用してください。

図書館は知の宝庫です、宿題のヒントがたくさん眠っています。
皆様のご来館をお待ちしています♪

南田中図書館

開館時間/平日:午前9時～午後8時

土日祝日:午前9時～午後7時

休館日/毎週月曜日(第3月曜日は開館)



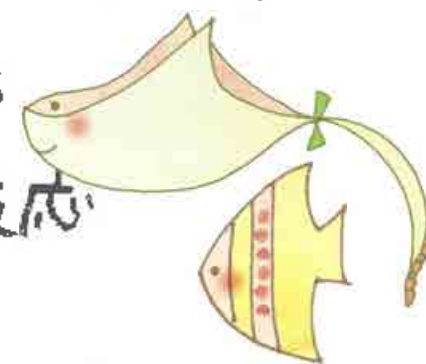
ユースサポーターのひろば

ここはユースサポーターが自ら記者となり記事を書くページです。

独断で決めました!!

ユースあるある!! (これがユースのリアルです)

- ・近況報告部活のことが多いがさ
- ・ちゃんと自分の近況報告にみんな反応してくれる(嬉しい...)
- ・みんな読書好き(自分もたくさん読まなきゃ...)
- ・毎月ボードゲームや、これこれと全然飽きない(なんたかんたい、よね)



P.N. ゆうき



イベント報告

職場体験の生徒たちがやってきました

毎年、南田中図書館では近隣の中学校からの職場体験の生徒を受け入れています。今年は7月から10月にかけて計4校12名の中学生が来てくれる予定です。既に来校した生徒は図書館内を回って本の並べ方を学んだり、本を修理したり、カウンターで本の返却などを体験しました。エプロン姿でカウンターに立つ中学生に利用者の眼差しも温かく、徐々に緊張が解けてくる様子がありました。

更に今年は10月に開催を予定しているボードゲームイベントで使用するゲームをテストプレイしたり、資料に専用シールを貼る作業もしてもらいました。

仕事を通して初めて社会と繋がる経験をした中学生。この先の未来の糧になりますように…

一緒に働けてスタッフも楽しい時間でした。来年度もお待ちしております♪



8月青少年特集展示



特集期間

7月28日～8月23日

今年の夏も暑い！
暑い夏を熱く過ごしませんか？
勉強や部活の隙間時間の息抜きに、
もしくは数日費やして、夏を謳歌する
ことをやってみよう！

好きな楽曲のプレイリストを作ったり、
好きなコンテンツで映像を楽しんだり、
手芸や工作、ライブやフェス、お祭りに行ってもいいですね♪

一度きりの2026年の夏を謳歌してくださいね♪

『フェンシング部の王子さま』 The prince of the Fencing Club

石川宏千花/作

さ・え・ら書房 2025.12 ISBN 978-4-378-01574-3

何もやる気が起きないそんな歩羅の毎日を変えたのは、たまたまテレビで見かけたフェンシング大会の映像。そこからフェンシングへ憧れを持つことに。念願叶って入学した江田学園中等部では、強烈な面々のフェンシング部の姿が。中学生で初めてできた友人二人は剣道部へ。一方歩羅は、フェンシング部へ入りたい気持ちを心に秘めている。友情を取るのか、やりたいことを取るのか揺れる歩羅の心。どうなる歩羅…。

おすすめ

『中三・ラブソディ』 Rhapsody for 3rd Year Junior High School

花里真希/著

講談社 2025.9 ISBN 978-4-06-540965-7

幼いころ、私の一番の宝物だった黄色いジャケットにひげをはやしたおじさんのキーホルダー。時が経ち私は中学3年生。中学最後の合唱コンクールの曲が決まった。曲を検索してみると『私この曲知ってるかも？そして歌っているこのおじさん知ってる！あのおじさんだ！』私はアルトのパートリーダーになったのに、上手く歌えず悩んでいると、「えっ！！うそ！！」私の前にあのおじさん？が現れた！！

『僕の永遠を全部あげる』

汐見夏衛/著

一迅社 講談社（発売） 2025.12 ISBN 978-4-7580-9769-7

生まれつき顔にあるアザが原因で周囲とうまくなじめず、学校にも家庭にも居場所を見つけられずに生きてきた千花。ある日突然現れた不思議な少年・留生との出会いをきっかけに、生きる希望を取り戻していく。留生が寄り添ってくれることでクラスメイトや家族とも少しずつ話せるように。大切な人を想う気持ちが切なくあたたかく響く物語。